

第7章 西区まちづくりビジョンの推進について

まちの将来像である「ひと・まち・資源が つながり 笑顔かがやく まち 西区」を実現させていくためには、区役所と本庁関係部局との連携を強め、行政の推進体制の強化を図るとともに、まず、その内容を区民全体に広く周知し、全員で共有し、区民と行政が協働でまちづくりを推進していくことが重要です。そこで、本書に掲げるまちづくりビジョンを推進していくために、以下のような取り組みを進めていきます。

1) 区民全体でまちづくりビジョンを共有する

まちづくりビジョンを円滑に実現していくためには、ビジョンの内容を関係者全員で共有するだけでなく、区民全体に周知していくことが重要です。

そのために、広報紙・ホームページなどへの掲載やフォーラムの開催等により、まちづくりを進める方向やまちづくりの取り組み状況等について情報発信していくとともに、西区のまちづくりに対する意見を募集するなど、区民・行政間の仕組みづくりを進めていきます。

2) 活動を進めるつながり（ネットワーク）づくり

まちづくりビジョンの実現に向けては、本書第5章(1 まちの将来像)にも示すように「ひと・まち・資源」の一つひとつがバラバラでなく、それぞれが“つながる”ことが大切です。

そのために、地域で活動する西区自治連合協議会やその他各種団体、事業者、行政等が相互に情報交換し、目的意識を共有させながら、様々な取り組みを協働・補完し合って進めていけるよう、関係者の“つながり”をつくっていきます。

そして、広報紙やホームページなどにおいて、様々な既存活動を紹介していくことなどによって、地域で活動する団体等への参加を広く呼びかけていくなど、地域の活動を積極的に支援していきます。一方、区民や各種団体同士においては、こうした情報ツールを最大限に活用し、各々が情報交換しあい、連携しながら、「つながりの輪」を大きく広げていくことが大切で、そのための「場づくり」を身近なところから始めていくことが望まれます。

3) まちづくりビジョン推進に向けた支援体制づくり

まちづくりビジョンを推進していくためには、区民と行政とが共通の認識をもち、役割分担を明確にして協働でまちづくりを進めていくことが必要です。

そのため、アクションプランを推進していくにあたり、西区自治連合協議会など各種団体が、現在既の実施している事業については、今後も活発に継続して活動が行われるよう支援を行い、さらに押し進めていきます。

また、これから始める新たな内容のものについては、西区自治連合協議会をはじめ各種団体など多様な主体と行政とが連携しながら展開していくとともに、アクションプラン推進の早い段階から、区民誰もがまちづくり活動に参画できる仕組みをつくっていきます。

そのような体制のもと、まちづくりを進めていく関係者が、まちづくりビジョンの推進に向けて、継続的に協議していくとともに、本書に示すアクションプランのうちで、「今すぐに行えること」または「今しなければいけないこと」、「時間をかけて進めていくこと」などのプラン優先度について検討・仕分けを行いながら、必要な協力体制やその具体的な進め方、新しいアイデアなどについて話し合っていく、できることから一つひとつ取り組んでいきます。

そして、「安全・安心」を軸として、これからの西区を担う子どもたちが健やかに育ち、安心して子育てができる環境をつくるために地域全体で子どもを育み、子どもから高齢者までが安全で安心して生活することのできるコミュニティを活かしたまちづくりを進めていきます。



だんじり、ふとん太鼓